

2. 新教科群

新教科グループ活動報告

石川久美・斉藤真子
中野和之・渡辺武志
高橋伸行・竹内史央
佐藤喜世恵・岡村史明
原順子・藤田高弘
三小田博昭

1. 現在までの活動内容

(1)第1回（5月6日）

- ①現在取り組んでいる新教科の活動報告と問題点
- ②新教科のこれまでの取り組みのまとめ資料を読んで新教科の特徴と期待される成果・問題点を検討

*どのような成果が期待されるか（2003年度報告書より抜粋）

- 「少人数学習により、実習、疑似体験、ロールプレイなどの多様な活動が可能となる。これらを経験することによって、**学びの多様性**を身につけるとともに、知識を身に付けるだけでなく体感することができる。学ぶことの楽しさを体感することにより、**自らの教養を幅広く高めていこうとする意欲**を掘り起こすことができる。また、これからの**進路や生き方（キャリア形成）**を探る助けともなる。
- ・3つのグループの中で自分の興味・関心のあるグループを選択できるため、**生徒が主体的に取り組む**ことができる。意欲の高い生徒が集まることにより、**深く専門的な学習**が可能となる。
 - ・名古屋大学教員などの**外部講師**による授業は、生徒のみならず、教員にとっても**知的刺激**となり、新たな視点や、最新の知識を学ぶ貴重な機会となる。また、他の授業では継続的に学習できない**社会問題**などをリアルタイムで学ぶことができる。**答えのない問題**を生徒とともに考える活動を通して、**知識を得るだけでなく、自分で考えて判断する力をのばす**ことができる。
 - ・1つの大きなテーマを3つのグループの視点から**多角的に**考えるとともに、グループ間の連携による**知の共有**を図ることにより、教科の領域にとらわれない広い視野を育てることができる。T. Tによる**多様な視点**もこの助けとなる。」
- ③新教科グループでの活動方針検討
新教科の内容に絞った本の出版を行うことによって成果と課題を検討することを決定

(2)第2回（6月18日）

- ①担当教員全員が本 の原稿の素案を発表
- ②出版の目的、スタイル、読者対象などについて検討

(3)第3回（7月8日）

- ①「自然と科学」「心と身体の科学」「国際コミュニケーション」「共生と平和の科学」それぞれの講座ごとに本の内容を検討
- ②4つの講座ごとにまとめて分冊とする、コピーしてすぐ使えるワークシート形式、授業案を載せる、CDをつけるなど様々なアイデアを検討
主に費用の面から4講座まとめて出版することに決定

(4)第4回（7月27日）

- ①新教科の共通理念の確認
- ②本の目的の確認：新教科のユニークな実践紹介を通して新しい学びを示す
- ③出版内容の検討
- ④共同執筆依頼
- ⑤日程の検討 平成17年度出版予定

（文責：石川久美）